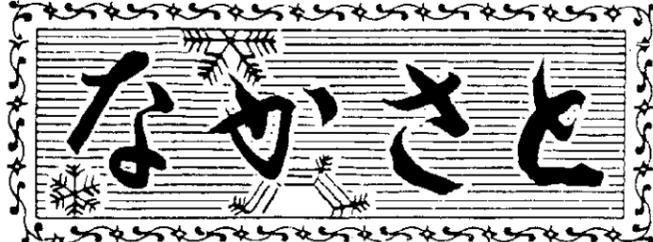


発行所  
新潟県中魚沼郡  
中里村公民館  
毎月1回25日  
定価 1部 5円



私たちの村

人口	7,303 (-2)
男	3,626 (±0)
女	3,677 (-2)
世帯数	1,670 (-1)

12月31日現在

1月



▼最近村内においては部落青年団を復活させようとする所もあるようですが、部落の雪上運動会など地域の活動がさかんなようです。こうした人間関係を改善し、住みよい地域を作ろうという動きは潤いのある生活を願う心からでしょう。

▼地域の伝統的な行事を子供達に伝えようと村内の各集落において鳥追いや道楽神焼きなどの行事が十五日に行なわれました。

昔はこの部落でもやってた鳥追いや道楽神焼きなどの年中行事も近年はだんだん見られなくなっていました。しかし白羽毛などでは、今も昔ながらの道楽神焼きの行事を残していますし、桂、荒屋などでも子供会、部落青年団が中心となり十五日に盛人に道楽神焼きを実施したそうです。

▼三月には各地域で雪上運動会が今年も計画されるでしょう。

最近では、干溝、上山、田中、宮中などの大きな部落で実施されたいへんに好評だそうです。こうした健康的で明るい地域作りをねらいとした活動は今後ますます増えていくのではないのでしょうか。

(写真は荒屋、白羽毛の道楽神焼きの風景)

交通事故発生件数

	件数	51年度	52年度
		件数	126件
十日町市	死者	4人	5人
	傷者	157人	139人
川西町	件数	25件	22件
	死者	2人	2人
津南町	件数	26件	35件
	死者	1人	4人
中里村	件数	10件	16件
	死者	1人	1人
合計	件数	187件	195件
	死者	8人	12人
	傷者	240人	237人

「交通事故に遇ってから注意するか、事故を起さないうちに注意するか」。事故の恐しさはよく知っていても、自分自身にはつい甘くなってしまう。表は、十日町市、中魚沼郡で昨年及び一昨年に起った交通事故の件数・死者・傷者の比較です。このように多くの事故がこの地域だけに起っているのです。他人事などと思っではいられませんが、幸福な家庭を一瞬のうちにも壊す交通事故に遇わないよう自分自身注意する事はもちろん、誰にでも注意してあげる気持が大切です。

みんなの願い

交通安全のために

編集所感

昨年10月の村政アンケートにご協力いただきましてありがとうございました。お礼を申し述べます。

その中で、「あなたは公民館報「なかさと」を読みますか?」という問いに対して、1,121名の回答があり、その内訳は

(1)毎月読む 888人 (79%)  
(2)ときどき読む 205人 (18%)  
(3)読んだことはない 28人 (3%)

となっていました。

また多くの方から感想や意見を寄せていただきまして感謝しております。

このデータを尊重し、今後一層みなさんに親しまれる「なかさと」にしたいと思います。

今月号から3面に「カメラ訪問」という欄を設け、村内のいろいろのグループを紹介して行きたいと考えていますので、自分達のグループや部落内の行事など、電話(2493)でお知らせいただけないでしょうか。

それから村外に転出された方にも「なかさと」を無料配布しておりますので、お届けしたい人の住所氏名を連絡して下さい。

みなさんの体験談や感想文をお待ちしています。各月の15日前にいただければ幸いです。

今年も「なかさと」をよろしく願い申し上げます。

人生往来

◎産声

藤ノ木和也 孝一 小出 ことほぎの年の暮  
藤ノ木 誠 武司 荒屋 天馬の暮  
村山 悦男 紀光 田沢 手織袖  
村山 貴子 晴好 堀ノ内 ゆかしさを着こなす  
新郎 樋口 裕一(二七) 朴木沢  
新婦 廣田 雪枝(二四) 干溝  
新郎 廣田 清毅(二四) 山崎  
新婦 樋口 肇子(二六) 通り山  
新郎 太嶋 誠司(二六) 芋沢  
新婦 樋口 悦子(二四) 十日町  
新郎 関澤 久大(三三) 倉下  
新婦 小林美江子(二四) 土倉  
新郎 村山 鉄夫(二六) 東田沢  
新婦 羽鳥 篤子(二五) 新屋敷  
新郎 鈴木 健一(二六) 芋川  
新婦 鷹島世司子(二五) 宮城県

安全を誓ひてにぎるハンドルの

去りし子の椅子ぬくもりの  
かに冬の陽させば座せ  
店に立ちいて一目見るむ  
斜光今いのち燃やさ  
櫛木の幹を白く  
廣田 肇子  
明の道を舍た道  
ことなく十年過  
近藤  
斎喜 俊子  
斎喜 正子  
斎喜 正子

中里文芸



# 年頭祝辞



明けましておめでとうございます。皆さまには御健勝にて佳い年を迎えられたこととお慶び申し上げます。しかも本年は何年来の小雪の暖かい正月を迎えることがで

## 年頭の祝辞

きまして、よい正月であったなあと考えた次第であります。「いとくは千年」ということであり「天馬空を翔く」といわれておりますが本年は村民皆さまにとって飛躍の年であって欲しいと願うものであります。



昭和五十三年の新春を喜び、すべての村民に今年が良き年であります事を心から祈念し、ご挨拶申し上げます。

永年にわたる不況を脱するため、政府は景気浮揚を掲げて膨大な私事、昨年十二月議会において議長に選任されました。もとより不適格者である事を誰よりも私が一番よく知るところであります。議員の皆さまに支えられつつ、村民より付託された任務を果すべく務める所存であります。皆さまの深いご理解とご協力をお願い申し上げます。

一九七〇年代は転換の年代と言われてきました。資源エネルギーの有限である事をイヤという程し

な予算を組んでおります。公共事業予算の対前年比35%アップを目玉とした国債依存率32%という超大型借金財政であって、一挙に不況を克服しようという意気込みであります。

しということでも牛肉・オレンジ・果汁などの輸入拡大、二百海里の漁獲制限等いづれも国内農業を直撃するものばかりであります。

本年の米の第三次生産調整によって年が明けるといふ厳しさです。今不況の中で雇用不安と低賃金で購買力が低下しており、農村がこれを受け入れる事は不況を更に大きくしないかと心配されます。

よって、国内小麦や大豆が亡び今また米が同じ道を歩かされる。これはまさに金の論理、価値観に根拠を置くからであります。

# 愛の手あたたかく

## 募金をありがとうございます

赤い羽根募金 昨年十月全国一斉に、国民たすけあい赤い羽根共同募金運動が実施され、中里村では各家庭や職場学校からあたたかいご同情とご協力をいただきました。おかげさまで合計金額は、目標を10%上回る四十三万六千五百円になりました。このお金は中里村社会福祉協議会に還元され、村内の社会福祉事業に活用されます。

### 歳末たすけあい募金

五十二年歳末たすけあい募金にご協力ありがとうございました。集まりました金額二十七万二千三百三十一円と社会福祉協議会からの繰入金六万三千六百三十九円の

### 倉俣中学生徒が

昨年の暮れに栃木県宇都宮市で家庭が苦しく電灯料も納められないので電気を止められてしまい、ロソクの光で勉強していた高校生が、家庭の生活費や親の入院費用をかせぐためのアルバイトに疲れてしまい、勉強中に居眠りをしたときにロソクの火から火災になり、一家が焼け出されるという

### 中里農協生産課より

一月十五日の成人の日には新成人を祝う人は、昭和三十三年四月と三十三年三月に生まれた人で、中里村には該当者が百四十名(村内中学校卒業生名簿による村内外居住者)おります。「成人おめでとう」でございます。

### 消費者の対応策はどうか

このほど中央地区簡易水道の配水池増設工事が完成しました。この建設資金の一部は皆様の年金積立金還元融資を受けています。まだ充分な水量ではありませんので今までも同様、皆様の節水をお願い致します。

# 役場課長 人事移動

中里村は1月11日付で次の人事移動(課長級)を発令しました。

総務課長	柳 栄久 (議会議務局長)
税務課長	上原 正孝 (収入役室長)
産業課長	柳 英作 (社会課長)
建設課長	鈴木 寛巳 (税務課長)
社会課長	樋口 信治 (建設課長)
収入役室長	鈴木 善雄 (総務課長)
議会議務局長	南雲 俊男 (産業課長)

# 新成人 おめでとう

今年からは新たに権利も義務も付帯され、あるいはとまどいを感じ、そしてまた希望に胸をふくらませていることと思えます。急テンポに変化して行く社会の中の、明日の担い手としてしっかりがんばってください。中里村の成人式は例年七月に実施しております。式典には普段着でOK、どうぞ出席してください。

# 消費生活を学ぼう

県消費生活センターでは次のとおり通信講座学級生を募集いたします。

- 2月 ▼食生活の知識 ▼食生活と栄養 ▼食品の選び方 買い方 ▼食品添加物
- 3月 ▼物価の動向はどうなっているか
- ▼これからの物価対策を考える
- ▼消費者の対応策はどうか

# 冬場の災害を未然に



冬期間は気温の変化や降雪のために、思いがけない事故が発生する恐れがあります。慢性化しないように次のことに気をつけましょう。

- ◆火や電気・ガス・石油などの使用率が高いうえに、交通事情や水利条件が悪く大火になりやすいので、火の元には旧倍の注意を。
- ◆万一の火災の場合の避難口の確保を。
- ◆雪融けの増水を嫌って、上流で水路を閉ざしてしまふと火災の場合困る。
- ◆水槽や側溝のフタに留意。

大切な生命や財産を守ろう。



今月号から、カメラをさげて各種グループを訪問し、この欄で紹介させていただきます。第一回目は中里村スキー倶楽部「青春」です。

結成以来三年目で会員は十代から五十代までの十六名(内女子三名)。「楽しく、安く、安全に早く上達するスキーを」をモットーにして、単にゲレンデの中だけでなく、夏季の体力づくりとキャンプ、登山、月一回の例会や機関紙の発行など仲間のつながりを大切にしています。県内のクラブが集まって結成している協議会に加入し、講習会や競技大会、スキーマつりなどの行事にも参加しています。初心者から上級者まで誰でも加入できます。問い合わせは樋口洋史(電話五五九一) 井ノ川真(電話二二一八)まで。